

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成判断基準	分析(成果と課題)及び改善対策
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 【判定B】	後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は54.8%であった。内訳は、「ねらい」58.2%、「熱意や工夫」59.9%、「説明や指示」54.7%、「考えさせる場面」59.7%、「興味・関心」42%である。前期(52.2%)に比べ評価が高くなっており、また昨年同期(52.5%)と比べても上昇している。授業改善の成果が現れたと思われる。今後もさらに授業改善に努めていきたい。
	② 授業や総合的な学習/探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定A】	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、76.6%(英語77.7%、数学78.7%、国語73.3%)であった。1、2年生のうちに主体的な学習について考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。
		家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定C】	1月現在で、1・2年生で1日の目標学習時間(1年2.5時間以上、2年3時間以上)に達している生徒は40.6%(1年42%、2年39%)であり、前期より1年は横ばい、2年は増加した。適正な量・質の課題の提示に努めていくことはもちろん、主体的に家庭学習時間に取り組むための興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	2年次12月に受検するGTECにおいて、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満 【評価不能】	12月のGTECを実施しなかったため評価不能。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア(難関大15名以上)、イ(金沢大60名以上)、ウ(国公立大200名以上) 【判定B】	・令和元年度の合格者数は、難関大学7名(内現役5名)、金沢大学61名(内現役51名)、国公立大学235名(内現役205名)であった。 ・3指標の内、イとウの2指標を達成した。特に国公立大学の合格者数は、目標を大きく上回った。現役合格率も56.3%であり、近年10年の中で最高の数字である。 ・来年度から入試制度が大きく変化する年であったこととセンター試験の平均点が低かったことで、本校においても安全志向が働き志望校のランクを落とす生徒が少なからず存在した。そのため難関大学の合格者数は近年3カ年2桁以上であったが、今年度は激減した。逆に、来年度は全国的にも浪人生が少なく難関大学にチャレンジしやすい年となるのでより一層第1志望校を大切にす進路指導を目指したい。
	⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	・限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定C】	・今年度も全ての部活動が原則平日1日、土日1日の休業日を設定している。生徒の72%が「効率的・効果的な活動に取り組んでいる」と回答し、保護者対象の学校評価からは74%の回答があった。また、昨年度との比較ではほとんど変化はなかった。 ・前期は3年生が主体で活動するため「効率的・効果的な活動」が実践できている傾向にあり、後期は1・2年生は主体であるために「効率的・効果的な活動」を模索するように考えられる。今後、更に効率的・効果的な部活動の取り組みを目指し、勉学と部活動の両立を実践させていきたい。
		・下校時間(平日午後7時)を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 【判定B】	・「下校時間の遵守」については、生徒対象の後期学校評価より「よくあてはまる(66%)」「ほぼあてはまる(23%)」の合計が89%であった。これは昨年度と比較しても改善がみられている。 ・下校時間を遵守させ、学習時間の確保と時間を大切にすけじめある学校生活を徹底していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・保護者学校評価の「保護者に対し、進路に関する情報が適切に提供されている。」においてC、Dの回答の割合が20%を超えており、Aの割合も低い。 ・学校自己評価(教員)の「桜塾は、学力向上に効果を上げている。」においてAの回答の割合が低い。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・入試制度が頻繁に変わったことが一因となり、情報が適切に提供されていないのではないか。今後改善していきたい。 ・桜塾の実施回数が減ることにより、本来の目的が達成困難になっているので検討が必要である。	

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成判断基準	分析（成果と課題）及び改善対策
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	・誰に対しても積極的に挨拶していることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (フ)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【判定B】 ・きちんとした頭髪・服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (フ)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 【判定A】	・「積極的な挨拶」については、生徒対象の学校評価から「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計は88%であった。また、保護者対象の学校評価からは合計が69%となり、平均は79%であった。これは昨年度の平均との比較からも改善がみられている。 ・「きちんとした頭髪・服装」については、生徒対象の学校評価から「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」の合計は96%であった。また、保護者対象の学校評価も合計が96%であった。これは昨年度の平均との比較からも改善がみられている。 ・このことから本校生徒は「積極的な挨拶」・「きちんとした頭髪・服装」への意識が高く、基本的な生活習慣が定着していることがわかる。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	・生徒は自転車に乗車しているとき交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (フ)の%が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定A】	・生徒対象の学校評価から「いつも守っている」との回答が64%であった。これは昨年度との比較からも改善が見られる。 ・昨年度は交通事故件数と交通違反件数が多く、今年度は生徒へ注意喚起をより多く行ってきた。交通違反件数については激減したが、交通事故件数はあまり改善が見られなかった。次年度も生徒、保護者、教職員が協力して交通安全啓発活動に取り組み、生徒の交通ルールの意識を高めていきたい。
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒が悩み（学習・人間関係・部活動など）が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	・悩みを相談しやすい（よくあてはまる+ほぼあてはまる）と答えた生徒が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定B】 ・相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みある生徒の早期発見と対策がとられている（よくあてはまる+ほぼあてはまる）と答えた教員が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定A】	・生徒学校評価より、「よくあてはまる(27%)」「ほぼあてはまる(39%)」の合計66%となり、前期アンケートよりも10%上昇した。 ・教員学校評価より、「よくあてはまる(44%)」「ほぼあてはまる(50%)」の合計が94%となり、前期アンケートより2%下降した。 ・「わからない」と答える生徒の割合が、他の質問項目と比較して非常に高くなることは分掌の特性上避けられないので、来年は尺度を変更する必要があると考えられる。悩みを打ち明けやすい相談室になるように、集会や相談室だよりを通して、周知徹底できるようにしていきたい。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	スマートフォンの使用時間が1日に1時間以内という生徒が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定C】	・スマートフォン等の使用時間が1時間以内という生徒は36%（30分以内9%、30～60分以内27%）であった。昨年度の28%と比較すると改善がみられた。 ・スマートフォン等の使用目的については、SNS、You Tube、電話、ゲームの順に非常に多く、中には学習に支障をおきている生徒も少なくない。また、使用する際のルールを決めていない生徒が70%と多く、効率的で進学校の高校生らしい利用方法を指導する必要がある。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	一冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定C】	6月1ヶ月間に一冊以上本を読んだ生徒の割合は28.0%、9月1ヶ月間に一冊以上本を読んだ生徒の割合は54.2%で、2月1ヶ月間に一冊以上本を読んだ生徒の割合は27.8%（休校のためデータは2年生のみ）で、平均値は36.7%であった。来年度は、図書館行事を充実させ、学習指導や進学指導での図書館利用を促すなど、年間を通して生徒の読書への関心を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・生徒学校評価の「悩みや人間関係に関する悩みを相談しやすい。」においてC、D及び「わからない」の回答の割合が多いことが気になる。 ・明確な目標をもって学校生活を送っている生徒の割合はどれくらいか。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・C、D及び「わからない」が多い方が相談室を使用しないのでよいのではないかと。今後もアンテナを高くするとともに、相談しやすい関係を築いていきたい。 ・入学した時点では少ないと思う。総合的な探究の時間等をとおして指導することにより、2年生では、ある程度明確な目標を持っている生徒を増やしていきたい。	

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成判断基準	分析（成果と課題）及び改善対策
<p>3 校は「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定A】</p>	<p>分掌業務の見直し（業務分散）と各課・学年における業務の一極集中回避を図った結果、(ア)+(イ)の合計は89%であった。来年度は、各課・学年が今回の結果の分析的に行い、さらに平準化を進めていきたい。</p>
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定A】</p>	<p>教員対象の後期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は96%であり、内訳はそれぞれ30%、66%であった。後期校内研修としては授業改善・授業力向上に向けて、教員による相互授業参観、11月に教科指導訪問を行った。今後も若手育成も意識したOJTの充実を含め教育活動に役立つ研修を行っていきたい。</p>
	<p>③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>・北信越大会以上の大会に参加した部活動が A 20以上 B 15以上 C 10以上 D 10未満 【判定C】</p>	<p>・北信越大会以上の大会に参加した部活動については、総体及び総文において運動部8（空手、バレー、剣道、卓球、陸上競技、柔道、ラグビー、水泳）、文化部4（放送、新聞、文芸、囲碁）の合計12であった。また、新人大会等においては、運動部5（空手、陸上競技、剣道、ソフトテニス、卓球）、文化部1（放送）、合計6であった。 ・したがって、北信越大会以上に参加した部活動数は13となり、全体として部活動はほぼ活発に行われていると考えられる。今後も部活動の活性化はもちろん、生徒の自主性と自立心の育成を図っていきたい。</p>
	<p>④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生（保護者等）を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満 行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問（中学校PTA） 【判定B】 年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 20万件以上 B 18万件以上 C 16万件以上 D 16万件未満 【判定A】</p>	<p>今年度の来校者数（協力者数）は4,332名であった。これからも学校行事の充実を図るとともに、学年便りやメール配信等を利用して本校行事に対する保護者への周知を図り、学校への関心を高めていきたい。※桜高祭の来校者数には保護者以外に同窓生等の数も含まれている。 PTA総会及び学年別懇談会 439名 1・2年保護者進路説明会 496名 桜高祭 1,110名 学校公開(教育ウィーク) 18名 3S歩行(含協力者会議) 856名 学校訪問(中学校PTA) 546名(15校) 入学式 480名 卒業式 387名 今年度の本校ホームページへのアクセス数は364,780件（前年度185,614件）であった。今後とも迅速に学校行事の情報を提供するはもちろん、保護者の方や地域の方にタイムリーで充実した内容の情報を提供できるように努めたい。</p>
<p>4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する。</p>	<p>① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。</p>	<p>時間外勤務時間を昨年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定B】</p>	<p>会議の効率化、各種休暇取得推進、時間外勤務時間個別集計表配付および中間面談時の指導により、(ア)+(イ)の合計は80%（前回79%）となった。特に、(ア)の割合が15%から30%に伸びたことは評価できる。来年度は、A評価を目指して対策を立てたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>		<p>・保護者学校評価の「保護者に対し、進路に関する情報が適切に提供されている。」においてC、Dの回答の割合が20%を超えており、Aの割合も低い。 ・ホームページのアクセス件数が20万件を超えていることは、人気の現れである。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・入試制度が頻繁に変わったことが一因となり、情報が適切に提供されていないとなったのではないかと。今後改善していきたい。 ・ホームページに関してアクセス件数に満足せず、さらに内容の充実を図っていきたい。</p>	